

76th KAGAWA

第76回 全日本中学校長会研究協議会

香川大会

期日 令和7年10月22日(水)・23日(木)・24日(金)

会場 JRホテルクレメント高松
レクザムホール
高松シンボルタワー
サンポートホール高松

育てよう 生きる力
創ろう 新たな時代の教育を
海とアートの香川から

第76回 全日本中学校長会研究協議会

香川大会



育てよう 生きる力
創ろう 新たな時代の教育を
海とアートの香川から



香川大会主題

「豊かな人生を切り拓き、 持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」

開催趣旨

現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字をとって「VUCA」の時代とも言われている。新たな感染症の感染拡大の影響及び国際情勢の不安定化は、正に予測困難な時代を象徴しており、一人一人が豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展を実現するためには、教育の果たす役割はますます大きくなっている。

このような中、令和3年度から全面実施となった学習指導要領では、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む社会に開かれた教育課程の実現、カリキュラム・マネジメントの確立が求められている。多様化、複雑化している子供が抱える困難に対応し、子供たちの命や安全を守るためにも、私たち校長は、経営者として、常に今と未来の社会の有り様を見据え、確かな理念の下に学校経営方針を立て、力強く学校経営を進めなければならない。

全日本中学校長会は、学校における働き方改革を含めた新たな教育課題に対しても果敢に挑戦し、校長相互の資質向上と目的を明確にした研究を推進する中で、「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」を研究協議会主題に設定し、学校経営の更なる充実と学校からの教育改革を目指して、研究協議を深めてきた。

本大会においては、これまでの研究の成果を踏まえつつ、全国中学校長の英知と創意を結集して、主題に迫る具体的な方策を究明し、我が國の中学校教育の充実発展を期するものである。



あいさつ

第76回全日本中学校長会研究協議会香川大会 大会会長
全日本中学校長会 会長 青海 正

第76回全日本中学校長会研究協議会並びに第59回中国・四国中学校長研究会香川大会が「ひとがつどい未来に躍動する 世界都市」高松市におきまして多くの参加者のもとで盛大に開催されますことに心からお祝いを申し上げます。また、これまで本大会の開催にあたり、準備を進めてこられました中国地区中学校長会会長 高来 英行 様、四国地区中学校長会会長 須内 康雄 様、本大会実行委員会委員長 北岡 隆 様 をはじめ、香川県中学校長会の皆様、そして中国・四国中学校長会の皆様や関係の皆様のご努力に対し、心より敬意を表しますとともに、ご支援ご指導を賜りました香川県並びに香川県教育委員会、高松市並びに高松市教育委員会の皆様をはじめ、多くの関係の皆様に深く感謝を申し上げます。

ところで昨今、深刻さを増す少子・高齢化、混迷の度を増すグローバル情勢、気候変動に伴う自然災害の激甚化、生成AIなどデジタル技術の発展といった大きな変化とあいまって、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっています。これからのが国を担う子供たちは、激しい変化が止まることのない時代を生きることになります。生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性が増しています。また、彼らは、将来国外に出て行く機会も増える一方、日本社会の内なるグローバル化の進展の中で、異なる価値観をもつ多様な他者と、当事者意識をもって対話をを行い、問題を発見・解決できる、「持続可能な社会の創り手」とならなければなりません。

そのために全日本中学校長会は、全日中新教育ビジョンの趣旨を踏まえ、学校における働き方改革を含めた枚挙にいとまがない中学校教育をめぐる諸課題に対しても果敢に挑戦し、校長相互の資質向上と、目的を明確にした研究を推進することにより、学校経営の更なる充実と、学校からの教育改革を進める必要があります。

そして、全ての生徒が「生きる力」を身に付け、変化の激しい予測困難な時代にあっても、自分の人生を自らの力で切り拓き、たくましく生き抜くこと、この生徒たちに託した夢をかなえるため、私たち自身、「しなやかさ」と「たくましさ」を兼ね備えた校長でありたいものです。校長の「しなやかさ」とは、豊かな人間性に裏付けられた包容力とどのような状況にあっても適切かつ柔軟に物事に当たることのできる対応力です。校長の「たくましさ」とは、豊富な経験と知見、そして、教育者としての確固たる信念に基づく判断力、人の心を動かす表現力、社会の変化をいち早く的確にとらえ、進むべき道を見いだすことのできる先見性です。私たちは、しなやかでたくましい校長を目指すとともに、学校のあるべき姿を思い描きながら、教育改革の当事者としてリーダーシップを發揮し、教育活動の充実に取り組み続けたいと思います。

結びに、本大会が「育てよう生きる力 創ろう 新たな時代の教育を 海とアートの香川から」を大会スローガンに「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」の研究協議会主題のもと、充実した協議が展開され、明日からの学校経営に資するとともに、我が國の中学校教育の更なる発展及び充実に繋がるものと確信しております。そして、今回の成果が次年度の長野大会に引き継がれますことと、全国の会員の皆様、お一人お一人の更なる御活躍を祈念いたしまして大会挨拶とさせていただきます。



あいさつ

第76回全日本中学校長会研究協議会香川大会 大会実行委員長
香川県中学校長会 会長 北岡 隆

全国各地からお集まりいただきました会員の皆さん、ようこそ香川県にお越しくださいました。心より歓迎いたします。

「育てよう 生きる力 創ろう 新たな時代の教育を 海とアートの香川から」のスローガンのもと、第76回全日本中学校長会研究協議会香川大会（兼第59回中国・四国中学校長研究会香川大会）を本県において開催できること、また、全国の仲間とともに教育の未来を語り合えることを、大変嬉しく思っております。

現代は将来の予測が困難な「VUCA」の時代とも言われ、中学校教育も多くの転換期を迎えております。生徒一人一人の背景は多様化し、学力、生活状況、価値観もさまざまです。その中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立をいかに実現するかが、大きな課題となっております。ICTの急速な整備により、1人1台端末の環境が整った今、教員の指導力や教材の活用力、さらには情報モラル教育の重要性も一層高まっております。

一方で、教員の長時間労働や人材不足の問題も深刻化しております。働き方改革を進める中で、教職のやりがいや魅力を再発見し、持続可能な教育環境をいかに築いていくか、今まさに知恵が求められています。

また、不登校やいじめ、心に不安を抱える生徒への対応も、学校全体で取り組むべき喫緊の課題です。校内の支援体制の充実とともに、専門機関との連携をいっそう強化する必要があります。

さらに、変化の激しい社会を生き抜く力を育むためのキャリア教育や、地域社会との連携もますます重要なになっております。中学生が「生き方」を見つめ、自らの未来を主体的に描くことができるよう、地域資源を活かした教育の在り方が問われています。

このように複雑で多様な課題に対応するために、今、学校経営そのものの在り方が問われています。多くの課題にどう向き合い、学校を取り巻く有形無形の財産をどう活用し、どのようにマネジメントしていくか。校長のリーダーシップがこれまで以上に求められる時代であると言えるのではないでしょうか。

本大会の研究協議会主題は、「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」です。先の見えにくい社会にあって、学校の舵取りを担う私たち校長は、これら多くの課題から目を背けることなく、正面から向き合っていかなければなりません。

本大会では、現場における地道な実践発表や、参加者同士の語り合いを通じて、課題解決のヒントを得ることができますと確信しております。本大会が、皆様の実践と知恵を分かち合い、より良い学校づくりの一歩となるとともに、不透明な時代の行く先を照らす一條の光となることを、心より期待しております。

結びに、文部科学省、香川県、高松市、香川県教育委員会、県内各市町教育委員会、全日本中学校長会、中国・四国中学校長会協議会をはじめ、多くの関係機関・関係各位のご支援とご協力により、本大会を開催できますことに、深く感謝申し上げ、ごあいさつといたします。